

図書館だより



さあ、今年も残すところ、あと僅かとなりました。今年1年を振り返ってみると、みなさんはどんな出来事を思い出しますか。改めて、振り返ってみると、自分が思っていた以上に今年も様々なことがあったのだったなと感じるのではないのでしょうか。また、それと同時に、今年もやり残しにも気づく人もいますかと思えます。やり残しは来年に持ち越すのではなく、今から取りかかってみましょう。

そして、年末といえば、もうひとつ！大掃除を忘れてはいけませんよ。年末には一年分の汚れを徹底的に掃除し、新年を綺麗にしたピカピカな部屋で、清々しく迎えたいですね。

最後に、今年もみなさんたくさんの本に出会うことは、できましたか。村上春樹さんの『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』や百田直樹さんの『海賊と呼ばれた男』などが注目を浴びていましたが、みなさんの『イチオシ本』はどの本でしたか。今年を振り返る際には、「こんな本を読んだな」と本にまつわることも思い出してみてください。

綺麗な部屋を手に入れる*

597-コ 『人生がときめく片づけの魔法』 近藤 麻理恵 || 著 サンマーク出版

“一度片づけたら、絶対に戻らない方法” そんな夢みたく方法を伝授してくれるのが、この本。どんな片づけ方をすれば散らからなくなるのか、どんな片づけ方をしていると片づかないのか、その両方を自身の経験を元に教えてくれます。自分の片づけ方と照らし合わせ、上手な片づけ方を会得しましょう。

初めは「リバウンドしない片づけの方法なんてあるのかな」と疑っていた人も、読んでいる内にきっと片づけが楽しくなってくるはずですよ。

掃除が終わったら新年の準備*

596-セ 『定番おせちとお祝い料理』 世界文化社

お正月、みなさんの家では、どんなおせち料理が食卓に並んでいますか。最近では、彩り豊かなおせち料理の品々がお店に並び、手軽に様々な味を楽しめるようになりましたが、やはり手作りは特別な味がするものです。手作りのおせち料理というと難しそうなイメージですが、作り方を見てみると、「これなら作れそう」と思えるものも意外とあります。この年末はぜひこの本片手に台所で手作りおせちに挑戦してください。

また、後半には年中行事に合わせた料理のレシピが載っているので、来年はこの本を活用して四季折々の日本の“食”を味わってみましょう。



図書館カレンダー

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

□ 開館日 ■ 閉館日

開館時間 * 8:50~17:00 ※1月8日(水)より通常時間で開館

2013これを読まなきゃ終われない

B913.6-イ 『オレたちバブル入行組』 池井戸 潤 || 著 文藝春秋

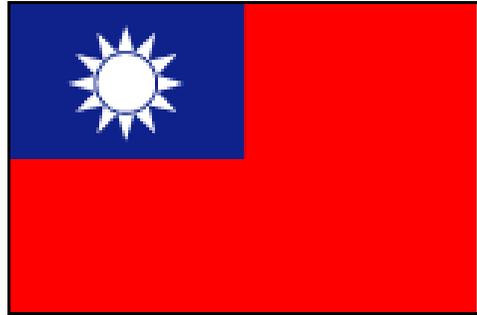
女子高生に読まれない本ランキングがあったら、確実に上位入選を果たす本だと思っていました。それがドラマ『半沢直樹』人気の影響で、あれよあれよという間に貸し出しが増え、読まれる本になってしまいました。テレビで見たアクの強いキャラクターを思い浮かべながら原作のこの本を読み返すと、情景が生き生きと伝わってきます。半沢直樹がぐっと相手を睨みつけているとき、いったい何を考えていたのか。小説だったら知ることができます。そして、銀行業界では左遷を意味する出向を命じられて終わっているドラマの続きが一刻も早く知りたい人は、シリーズ最新作『ロスジェネの逆襲』も併せてどうぞ。

913.6-ミ 『まほろ駅前狂騒曲』 三浦 しをん || 著 宝島社

まほろシリーズ待望の3作目が秋に発売されました。まほろ駅前便利屋を営む多田。そこへ転がり込んできた行天。高校の同級生という繋がりがありながらも、親しい間柄ではなかった二人。気がつけば行天の居候生活も三年目に突入しました。「こいつはいつまでここに居る気なんだ」と役に立たない行天を見ながら思う多田ですが、行天の素っ頓狂さに救われているのも事実。三年目も年明け早々から、様々なアクシデントに見舞われヒヤヒヤしっぱなしですが、お馴染みの常連客とのやりとりには相変わらず笑わせられます。また、今回は今まで踏み込んで来れなかった行天の心の闇に多田が少しずつ踏み込んでいく様子も描かれており、見どころの多い1冊となっています。



世界を旅する12ヶ月 ～台湾～



「世界を旅する12ヶ月」第7回目は、台湾です。台湾本島の大きさは九州を一回り小さくした大きさです。本島の3分の2は山岳地帯で、南北に走る山脈が島の中央に横たわっています。

首都は台北(タイペイ)で、ここでは約260万人の人が暮らしているのだそうです。台湾は食文化が豊かで、人々の熱気を感じながら、現地の「食」を楽しく味わえる夜市も有名です。

70万点余りの文物を所蔵する世界屈指の博物館「国立故宫博物院」や台湾民主記念館の他、国立の劇場やコンサートホールが立ち並び「台湾民主公園」などが人気の観光スポットとなっています。

*台北だけじゃもったいない

292-チ『台北近郊 魅力的な町めぐり』地球の歩き方編集部 || 著 ダイヤモンド社

台北は台湾の中心都市であり、観光地としても有名ですが、その近郊にも魅力的な町がたくさんあります！映画の舞台のようなレトロな町並みが広がる九份(ジウフェン)、陶器の店がズラリと並ぶ陶芸の街 鶯歌(インガオー)、台湾一的美食夜市があるという基隆(ジーロオン)、名湯が体と心を癒してくれる北投(ペイトウ)など、小さいながらも様々な魅力に溢れた町が次々に紹介されています。読めば読むほど、「台湾には本当にいい町がたくさんあるなあ」と感じます。

また、その土地ならではの絶品グルメやボリュームたっぷりの駅弁など、魅力いっぱいのおいしい情報も満載です。自分の好みの町を探したり、これは絶対に食べてみたいという一品を見つけたり、ウキウキとした旅行気分を味わえます。

*とってもおいしい台湾料理を作るなら

596-ゴ『Winnieの台湾キッチン』後藤 ウィニー || 著 文化出版局

ガイドマップで写真を見ているだけで、食欲をそそられてしまうおいしそうな台湾料理の数々。でも、日本のスーパーじゃ揃えられない調味料や食材もあるし、家でその味を再現して食べるのは難しいかなと諦めている人に、この本をおすすめしたいです。ここに載っている台湾料理のレシピはどれも日本の調味料、日本の食材を使ってあります。

体に優しいお粥やスープから、みんなで囲って食べられる鍋料理や豪快な肉料理まで、台湾のポピュラーな料理のレシピが幅広く紹介されています。作り方もわかりやすく、料理が得意な人でなくても、気軽に挑戦できます。そして、気になるお味のほうですが、食べた人みんなが感動するおいしさのこと！ぜひ一度は作って、そのおいしさを味わってみたいですね。

*台湾茶ってどんなもの？

596-ヤ『はじめての台湾茶』山道 帰一 || 著 ACCESS

みなさんには、あまり馴染みがないかもしれない台湾茶。その台湾茶がどんなお茶であり、どんな魅力があるのかをこの1冊で知ることができます。

お茶の種類として、台湾四大銘茶を始め、半発酵によって作られる「青茶」を8種類取り上げ、それぞれの特徴や風味を紹介されています。また、お茶の淹れ方や茶道具、テイस्टイングの楽しみ方についても写真付きで解説が載っています。日本のお茶とは異なった作法は新鮮で、「台湾のお茶はこんな淹れ方をするんだなあ」と興味を覚える人もいるかと思います。

さらに、それぞれのお茶を引き立てるスイーツの紹介や茶葉を使ったレシピなど、女子の心を惹くページも多く設けられ、楽しみながら読むことができます。

*台湾に新幹線ができるまで、そして、台湾でふたりが再び出会うまで

913.6-ヨ『路(ルウ)』吉田 修一 || 著 文藝春秋

日本の新幹線が台湾を走る。現地での建設プロジェクトのメンバーとして選ばれた春香は、台湾へ移り住み、その暮らしを楽しみながら新幹線開通のため力を尽くす。

何より台湾は春香にとって思い入れの強い場所だった。かつて旅行で訪れた台湾で春香はエリックという名の青年に出会い、お互いに惹かれあうものを感じた。そして、繋がりが途切れ、長い年月が経った後も春香は心の片隅でエリックを忘れられずにいるのだった。

これは台湾で新幹線が開通するまでの道のりを描きながら、日本と台湾、ふたつの国を繋ぐ多くの人たちの人生を描いた物語です。温かな人と人の触れ合いと共に、賑やかな台湾の街並み、美しい自然、思わずお腹が鳴ってしまいそうになるおいしそうな料理、と台湾の魅力をどのシーンからも感じることができます。



図書館司書の「今月はこの本を読みました」



今月は伊坂幸太郎さんの著書『チルドレン』(B913.6-イ 講談社)を読みました。「Amazon オールタイムベスト小説 100」の中に『チルドレン』が入っていたのですが、読んだことあるのに内容が思い出せない…ということで、もう一度読み直してみました。

この本は短編集になっていて、キーパーソンとなるのが陣内という男です。どの話でも、陣内は主人公にはなっていません。なのに、強烈な個性で、物語の中に登場し、周囲をかき回します。銀行強盗の人間になっているのに歌い出したり、公園で時が止まったと大騒ぎしたりと、おもしろいのですが、こんな人が本当にいたら、周囲の人は苦労するなど思ってしまいます。しかし、はちゃめちやながら陣内は“いい奴”であり、周囲もそんな陣内を慕っていることが伝わってきます。陣内がつぶやく名言にも注目です。

